

---

---

# 2013年度 事業報告書

---

---

より良い 2014年度を創り出すため



特定非営利活動法人  
今治 NPO サポートセンター

— 目 次 —

I	2013年度総括	1
II	2013年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
(1)	施設の運營業務	2
(2)	市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務	5
(3)	機関紙発行とこれに付随する情報収集業務	8
(4)	市民活動団体相互の交流推進業務	20
(5)	ボランティアコーディネート業務	20
(6)	相談業務	21
(7)	まちづくりサポーター業務	21
(8)	市民活動センター登録団体アンケート結果	24
2.	その他の事業	32
(1)	情報提供事業	32
(2)	審議会・委員会への参加	32
(3)	講師派遣	33
(4)	共同開催事業（東日本大震災被災地ボランティア活動ボランティアバス運行）	33
(5)	資源回収活動事業	34
(6)	いまばり夢学校開校準備事業	34
(7)	「しまなみ資源」を活用した地域振興事業	34
3.	会議に関する事項について	35
(1)	総会	35
(2)	理事会	35
III	2013年度決算	37
1.	2013年度活動計算書	37
2.	2013年度貸借対照表	39
3.	2013年度財産目録	40
4.	2013年度監査報告書	41
IV	2014年度事業及び予算	42
1.	2014年度事業計画書	42
2.	2014年度事業予算書	49

## I 2013 年度総括

多様化する地域課題をいかに解決するか。私たち一人ひとりが主体となり、地域の力で解決する必要性を強く感じる昨今です。そのための受け皿・NPOを育てようと、「NPO法改正」、それに伴う「認定NPO法人制度」の認定要件緩和等が進みましたが、真の意味での「市民自治」に向けた取り組みはこれから。今治市でも「市民参加」や「協働」等のキーワードのもと、行政・市民が互いに対話をはじめている段階です。新今治市誕生10年の節目の前に、行政にも市民にも、これまでの取り組みを一步前進する地域課題への向き合い方が求められます。

指定管理者として運営をする「今治市民活動センター」には、地域リーダーが集い、多彩な活動を志向する姿が見られました。4月と12月には、そんなリーダーのつながりを生むきっかけになればと、交流を含めた意見交換会を開催しました。ただ、単に多様な関係者が揃った場を設定するだけでは展望は拓けません。向き合う課題を共有し、共に解決に向けて参画できる具体的なプログラム立案等の支援が求められるところです。2012年度から取り組んでいる「東日本復興支援ボランティアバス」のプロジェクトは、コンソーシアム形式の組織へ改変。復興という目標を真ん中におき、複数の団体が主体的に参画できるしくみが整ったのは新たな形です。

心をつなぐことができる“何か”がある。それが見つければ、行政もNPOも、地縁団体も地元企業もパートナーシップを組めるかもしれません。その前提となるのは、自らの団体を対外的に説明し、理解してもらう力を持つこと。1年を通して展開した「今治市民活動センター」のソフト事業は、そんな思いをベースに組み立てたものでした。若者の感性をいかしたり、助成団体との橋渡しをしたりと、様々な切り口を模索しましたが、各団体がミッション・ビジョンを明確にし、それを端的に伝える技術と発信の手法を身に付ける重要性を再認識しているところです。

以下に2013年度の報告をまとめました。会員の皆様におかれましては、ご意見、ご批正をいただくとともに、引き続きセンターの事業をささえていただきたくお願い申し上げます。

## II 2013 年度事業報告

### 1. 今治市民活動センター管理運営事業

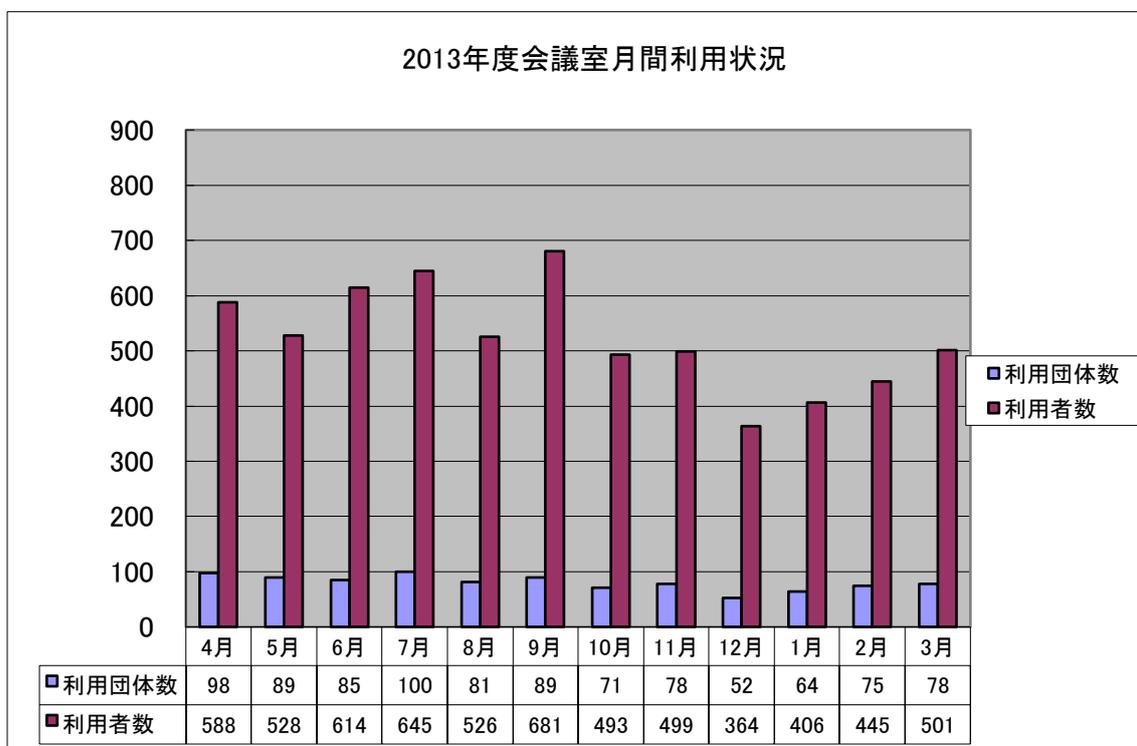
#### (1) 施設の運營業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館）          （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸会議室の無料提供（登録団体に限る）</li> <li>・機材の貸出</li> <li>・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出</li> <li>・貸事務所の効率的な運営</li> </ul>
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。</li> <li>・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。</li> </ul>
結果 課題	<p>会議室の利用者は 960 団体・6,290 人となった（H24 年度；972 団体・7,266 人）。市民活動団体の広報活動、会議の運営などに欠かせない備品が整い、多くの方に利用いただいた。デジタルカメラ等、ワークショップやイベントの記録等に活用できる備品貸出にも柔軟に対応し、好評だった。1 階ロビーにある、インターネット接続済みのパソコン利用や書籍閲覧ができるスペースの活用も増え、会議終了後、懇談する姿が多数見られた。</p> <p>貸事務所は、途中に入退室があったが、3 月末現在で 7 団体が入館しており、内 3 団体が 2 部屋を使用している状況である。事務所を持つことで活動の幅が広がるなど、その効果も生まれている。貸出の許可等の手続きが指定管理者に委譲され、簡易になり、入館団体には好評である。</p> <p>登録団体や市民ボランティアがセンター運営に参画して下さる機会も徐々に増えている。4 月には「ガールスカウト愛媛県第 2 団」による花壇への植栽活動、12 月には複数の団体によるセンター大掃除、また市内の高校生による機関紙「夢サラダ」づくり等、主体的な協力体制が構築できている。開館から 10 年以上を経過し、施設の認知度も向上している。より多くの市民に足を運んでもらうことができるよう努めたい。</p> <div data-bbox="1018 1279 1362 1536" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1034 1541 1350 1632">花壇への植栽活動。日常的な水やり等も担当いただけ、センターの美化向上にご尽力。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料で使える。キッチンがある。遅くまで使える。駐車場が広い。冷暖房がある。立地がいい。文房具、辞書があり便利。コピー機やプロジェクター、コピー機、シュレッダーがあり便利。</li> <li>・空調の設備に多少不便さがある。駐車場がいっぱいの時が心配。中会議室の机が大きいので狭い。</li> </ul>

## 2013年度センター利用状況詳細

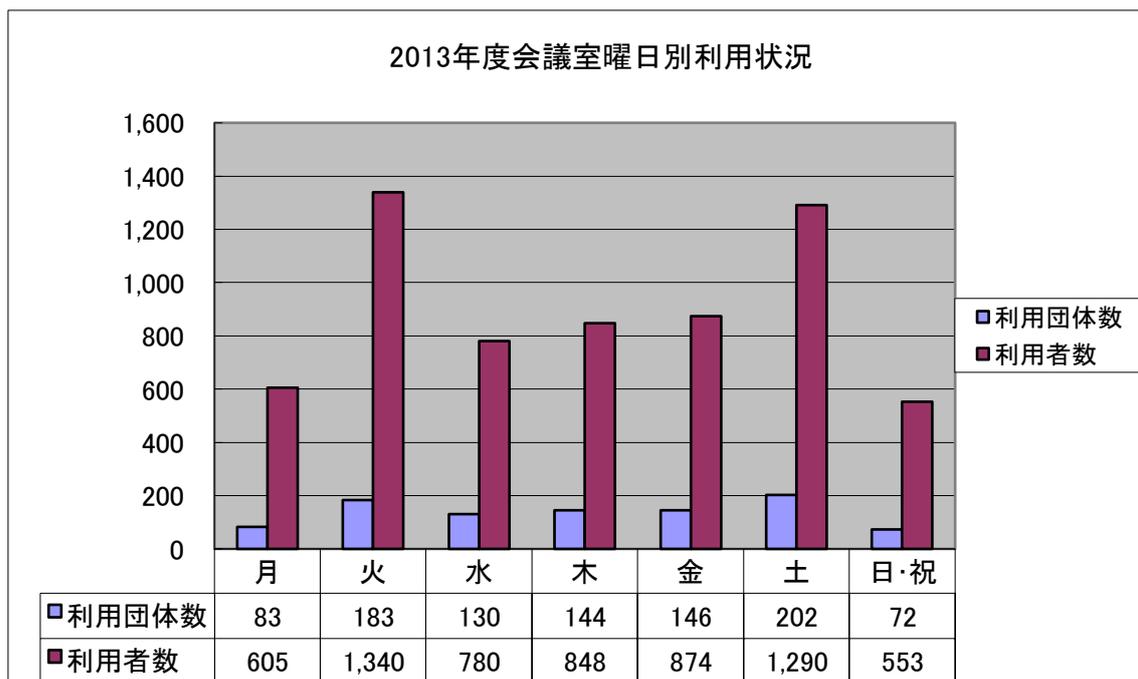
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	98	89	85	100	81	89	71	78	52	64	75	78	960
利用者数	588	528	614	645	526	681	493	499	364	406	445	501	6,290



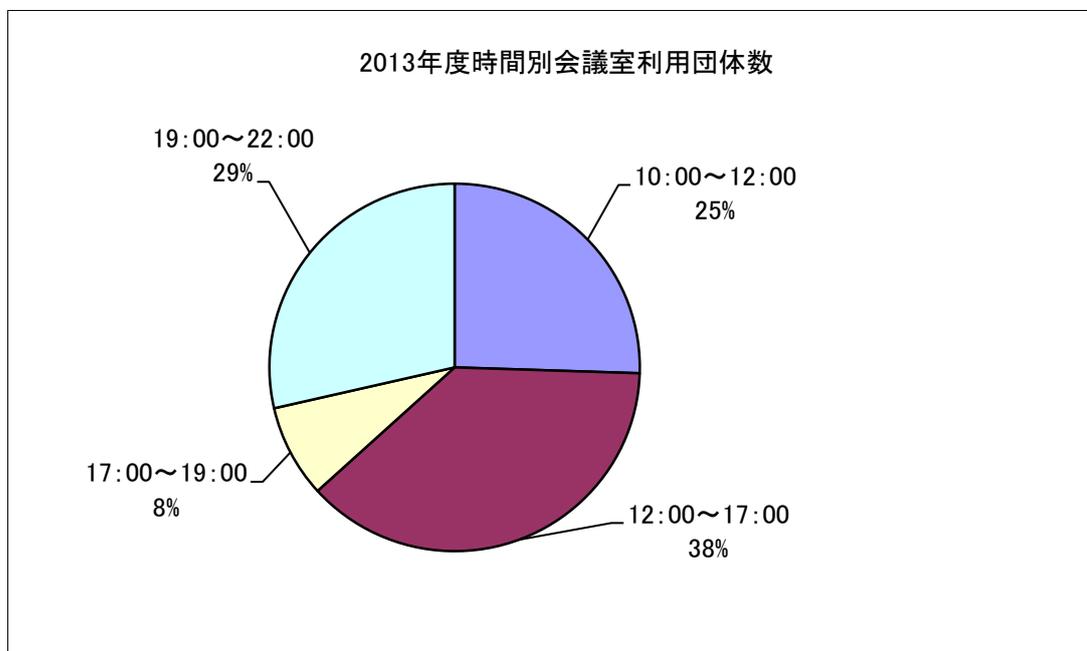
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	83	183	130	144	146	202	72	960
利用者数	605	1,340	780	848	874	1,290	553	6,290



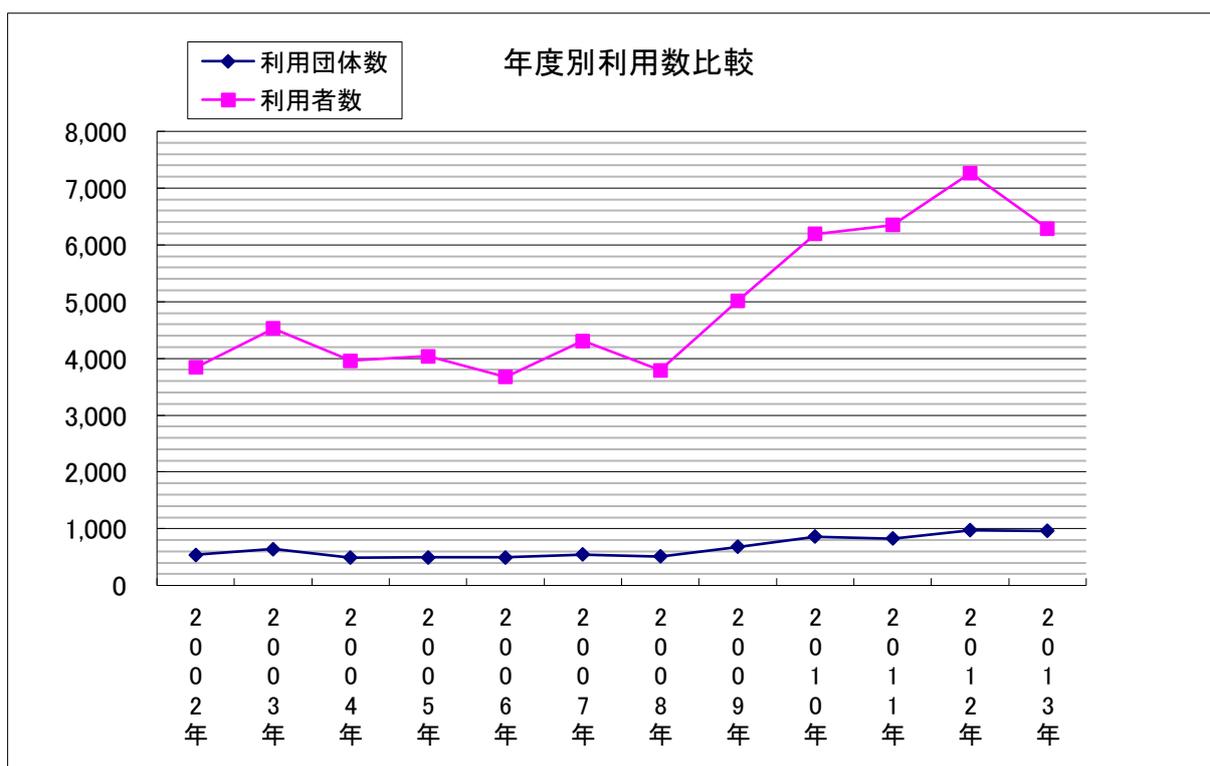
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00～12:00	25	27	23	24	21	21	14	13	14	15	15	19	231
12:00～17:00	37	29	28	35	25	32	25	30	19	23	33	41	357
17:00～19:00	8	14	10	18	14	13	12	12	5	10	11	4	131
19:00～22:00	28	19	24	23	21	23	20	23	14	16	16	14	241
合計	98	89	85	100	81	89	71	78	52	64	75	78	960



【年度別利用数比較】

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
利用団体数	542	640	489	492	496	543	510	682	862	828	972	960
利用者数	3,841	4,528	3,957	4,037	3,673	4,306	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266	6,290



## (2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容

(第1回) 平成25年6月23日(日) 13:00~15:30 参加者: 14名

高校生を中心とする若い世代が、今治市で活動する市民活動を取材し、彼らの発想や視点をいかして、地域の現状や求められる活動を「機関紙・ラジオ」で発信していくプロジェクト初回研修会。市民活動のリーダーに焦点を当てて紹介することを確認し、取材の基本、文章を書く手順や発信の仕方を学んだ。「学校だけでは学べないこと」「将来に役立つ活動」との期待を持った9名の学生が集まり、ボランティア活動がスタートした。



ニュースになる活動は一部。高校生の目線でスポットを当てて欲しい! 活動の意味を共有。



「最新・迅速・正確・分かりやすさ」が不可欠! 新聞誌面には読み手を意識した工夫がいっぱい。



リーダーに迫る模擬練習。3人1組で挑戦。ポイントは聞き取ったことをたくさんメモすること!

取材したい人・団体を個々人がイメージし、提案。10ほどの活動から5つに絞り込み、取材先とした。3人1組で取材の準備を行う。事前調査、質問項目づくり、アポとりなど、準備を進めた。

### ■取材準備の様子■



7/18(木) この日は数ある団体のチラシや報告書等を手にとり、興味がある活動や惹かれるリーダーを探した。地域活性化、文化保全、子育て等、多様な分野の活動があることにびっくり。



7/19(金) 取材先を決め、早速、アポイントメントをとる。慣れないながら、しっかりと対応。取材日が決まり、つくった質問でシミュレーションも。質問者、メモ、カメラマンと役割分担もばっちり。



### ■取材・体験活動の様子■



7/20(土) 今治美容師協会代表の篠崎裕章さんに話を伺う。美容師という職業についても感じたことを応答出来る等、楽しい取材ができた。



7/24(水) しまなみ海道を守り育てる会代表の村越定信さんに話を伺う。地元の総代をおつとめで人望を集める人柄に触れながらの取材ができた。



7/29(月) 子育てグループ「みなほっこ」代表の近藤まゆみさん、音楽療法士の近藤美和子さんに話を伺う。自身が向き合った子育ての不安、音楽療法との出会いを聞いた。



7/30 (火) 子どもきずなプロジェクト  
代表の青野信久さんにお話を伺う。  
震災発生後、できる活動をと動いた。  
その機動力にボランティア活動  
の原点を学ぶ取材となった。



8/12(月)・13(火) 子どもきずなプロジェクト  
福島キッズがしまなみで体験交流  
する活動現場も取材。地元のグル  
ープ、ホームステイ先の住民等、  
多様な人の協力体制に感動。



現場は愛媛大学等、地元の学生が支  
える。リポーターの一人はスタッ  
フとして参画。学びが多かったのはス  
タッフミーティング。

### ■記事編集の様子■



8/31 (土) 取材メモを持ち寄り、  
原稿づくりをスタート。まずは  
印象に残ったことを中心に書い  
てみる。



9/17 (火) 原稿に合う写真をセ  
レクトする。膨大な数の写真か  
ら「これぞ」という一点を選ん  
でいく。



9/24 (火) 紙面の最終確認。タイト  
ルに頭を悩ます。編集後記には、取  
材先で感じた高校生らしい感想が  
添えられた。

### ■ラジオでの発信■



広報媒体の一つラジオを活用して、団体の紹介にチャレンジ。取材で感じた市民活動の意義、団体の魅力を伝えようと取り組んだ。ゲストで参加くださった団体代表と相談しながら、伝えたいことを整理。15分という番組内で発信できる情報量を確認し、いよいよ収録。5団体の番組は「知らせる番組」「考えさせる番組」「ほっこりさせる番組」「元気を出させる番組」と、バラエティに富んだものとなった。

### ■高校生リポーターが製作した機関紙（成果物）はp9～p13に掲載

(第2回) 平成25年9月1日(日) 10:00～15:00 参加者: 30名

NPO 活動の現場を体験するツアーを実施し、活動の一端を担うことで、まちの課題や活動の意義の理解、参画者増加を目指し開催。「大三島の自然を守る会」の現場体験ツアーでは、希少種を含む地域の自然の豊かさや、生物多様性の必要性を理解してもらい、自然環境と生態系の豊かさや維持管理活動について、市民が市民に伝える機会となった。

### ■報告書詳細はp14～p15に掲載



「大三島の自然を守る会」から稲刈りの手順を教わり、チャレンジ。



稲穂を刈り取る度に、カエルが飛び出す。お目当ての「ダルマガエル」はなかなか見つからず。



体験を振り返りながら、専門家からのミニ講座も。「生物多様性」がもたらす恵み、保全の大切さを学び、日々できることを考える子ども達。

### ■参加者の声■

#### 大人の感想

- ・今日の体験は子どもが成長する上で必要なことだと感じた。
- ・地域の人々が中心の活動で、他ではあまり体験できないと思った。
- ・貴重な生き物を守り、次の世代へ残すために、できることを考えたいと思った。

#### 子どもの感想

- ・いろいろな生き物があることが、人の生活につながっていることがわかった。
- ・ダルマガエルを見つけたかった。また、大三島に来たい。

(第3回) 平成26年3月15日(土) 13:00~17:00 参加者31名

地域に根ざし、継続的に活動するための大きな課題である資金獲得。団体の運営体系に合う資金獲得を目指す中、新規・発展的活動に活用したい「助成金・補助金」の説明会を開催した。助成プログラムの情報がうまくキャッチできない、思いの羅列でうまく申請書が作成できない等の悩みに、助成プログラム担当者から直接、助言をいただける機会に参加者一同、熱心に耳を傾けた。



### ■報告書詳細は p16~p19 に掲載



自助努力で確保する性質ではない助成金。「新規事業の開始・事業の改善のために獲得・活用すべき」と助言。



7つの資金提供者から助成情報を聞く。団体だけの思いだけでなく、資金提供者の思い(=公益的目的)をしっかり受け止めたい。



これまでの活動を点検。それを踏まえた次の活動をイメージするワークを展開。資金提供者からの助言は貴重。

### ■参加者の声■

- ・じっくり助成情報が聞けた。
- ・助成金=単に資金確保という見方しかしていなかった。自分たちの活動を見直す機会が持てて良かった。
- ・ワークショップは難しかったが、参考になった。
- ・2月頃の開催を希望。継続して欲しい。

対象	市民活動に関心のある一般市民（高校生中心）
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営に必要な資源（人・資金）を集める支援に重点をおいたプログラムを設計した。</li> <li>・人の参画においては、担い手不足及び担い手の高齢化が課題となっていることから、地域の若者が参画できるプロジェクトとした。</li> <li>・若者の社会貢献意識が高まる中、地元の高校生にターゲットを絞り、センターへの来館も促した。</li> <li>・活動資金に困窮する団体が多い中、比較的チャレンジしやすい助成情報をとりまとめて紹介する講座を組み立てた。</li> </ul>
結果 課題	<p>活動を継続するためには、理解者を増やすこと、多様な資金源を確保することが求められる。そのためには、団体の信頼性向上が必須で、また同時の適切な情報開示と届けたい人に情報が伝わるしくみが求められる。高校生が参画した「市民活動リポーター」活動は、第三者の目線で活動の意義や魅力を社会へ発信する機会として有意義であった。取材活動に留まらず、運営スタッフとしての参画を求める声もあったことから、次年度のプログラムの手法改善につなげたい。2回目の開催となった「助成プログラム説明会」では、申請書の書き方というスキルに偏った講座ではなく、団体のミッションの整理、ステークホルダーとの関係性の理解を深めた。組織力の向上を支援する内容で、寄付・会費の獲得といった、NPOの生命線への地道な努力の必要性を共有する機会ともなった。</p>

### （3）機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」（年間2回）、「得夢サラダ」（年間12回）を編集、発行した。また、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えようと、「夢サラダ」配布場所を開拓した。
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。</li> <li>・ホームページでも情報を伝えた。</li> </ul>
結果 課題	<p>市民活動団体 88 団体、施設・機関 32 箇所に配布した。配布部数は毎月冊子 2015 部、掲示用 350 部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。</p>

2011年3月11日。東日本で大きな出来事があった。甚大な被害をもたらした、東日本大震災。被災地では復興に向けた歩みがはじまっている。生活の安定には、長い道のりが予想される中、遠く離れた愛媛・今治から何ができるだろう……。震災発は後、いち早く動いたのが、青野信久さんだ。私たちは、青野さん代表の「こどもの絆プロジェクト」の夏キャンプに参加した。

笑顔へ

まず目に飛び込んできたのは、子ども達の「笑顔」だ。震災直後の外遊ははも、その他。しかし、私たちの目の前で泳いでいる。なんの心配もなく、思い切り子どもたちは遊んでいる。子どもの願いを実現しているこのプロジェクトは、「成功している」と海に入った瞬間のあの笑顔で感じ取った。



楽しいように遊ぶ子どもたち

- 子ども達を迎え入れるメニューは様々
- ・水軍体験
  - ・学生企画「暑さを飛ばす水鉄砲体験」
  - ・しまなみでの海遊心
  - ・ホームステイ などなど



こちらまで!!

こどもの絆プロジェクト  
代表 青野信久さん  
090-1174-8252

縁の下の力持ち:

このプロジェクトを支えるのは、数多くのボランティアだ。子ども達をホームステイに送り出した後、スタッフミーティングに参加した。子ども達と思い切り遊んでいる時とはうって変わって、緊張した面持ちだ。子ども達の健康状態、ケガ等のリスクはなにか、皆が楽しく過ごせたかとい、た本日の振り返り。一つ一つ確認していく。そして次の日の確認作業。彼らが主体的に動かし、ている。彼らは高校生や大学生たちだ。



スタッフミーティングの様子



編集後記〜越智老太・越智祐吾・越智香那恵  
こどもの絆プロジェクト。テレビや新聞で見たり方も多いと思います。実際の現場を見てみると子供達は常に笑顔で楽しさが伝わって来ました。この復一番の鬼力にな、たのではと思ひます。さて、他のチームは全員北高生なのですが、このチームは西、精華、北の連信チームです。なぜか全員越智で、木本なんです。このコーナーは、僕祐吾が書き他は香那恵さんが書きました。ここだけ読みにくくなりませんか？では読者の皆様ごきげんよう!!

青野信久の生き様

〜こどもの絆プロジェクト〜



# 地域と歩む



## しまなみ海道周辺を守り育てる会とは？

地域をよりよくするため…そんな紹介がぴったりの団体がある。  
 「しまなみ海道周辺を守り育てる会」だ。  
 名は体を表すというが、まさに「しまなみ海道」周辺の清掃や植樹  
 歴史や文化保全を進め、「守り育てる」。  
 会員数は50名、小学生から高齢者まで、活動に参加。  
 地元企業の賛助もあり、支え手は300人をこえる。  
 会長の村越定信さんにお話を聞いた。



## よりよい街へ

四国と本州の往来を便利にした「しまなみ海道」。  
 開通時から観光で訪れる人も増えた。  
 この裏側にゴミの大量放棄があった事実を、皆は  
 知っているだろうか。  
 ペットボトル、雑誌は想定範囲、冷蔵庫やテレビ  
 ベッドに自転車まであったというから驚きだ。  
 「多くの人が来てくれるのに…」との嘆きが、地元住民を  
 団結させた。  
 はじめての清掃活動。何れ、10台トラック10台分もあつた。  
 参加者も増えた。最初は数人ではじめた活動の輪は、  
 みるみる増えた。

努力の甲斐あって、ゴミは減った。  
 しかし「0」にはならない。「0」になるまで活動をつづける  
 と語る村越さんの目は熱い。



## 地域を見つめる

活動の広がり象徴するのが、歴史文化の保全  
 活動。昭和41年に発掘された「相谷古墳」を  
 顕彰している。地域への愛着が深まった証だ。  
 40年放置され、踏み入る道さえなかったところを、  
 草刈りし、定期的に見学するようになった。

地元歴史家の  
 協力を得て、保護  
 や整備も進めて  
 いる。  
 「地域にこんな  
 埋もれた財産が  
 あつたんだ。もた  
 ない」そんな  
 率直な思いが  
 地元を動かし  
 ている。



しまなみ海道周辺を守り育てる会  
 会長 村越定信  
 問合せ 近見公民館 0898-32-3258

## あしがき 沖原彰、清水聖奈

地域と歩み、地域に生きる村越さん  
 に迫れた。気づき、考え、実行する村越さん  
 のようになりたい。

# ママの奏でる音(愛)のあふれるママさんブラスバンド

「ママになっても楽器を奏でたい!!」「子どもたちに佳の音を聴かせたい!!」

この願いを、ママ自らが「叶えるグループ」がある。マミーズ「愛バンドバステトだ。およそ40人のママさんがあつまり、音楽を楽しむことをコンセプトに愛のあふれる演奏を目指して活動している。

## Question!!

### ママさんブラスとは???

ブラスバンドといえば吹奏楽のようなもの。音の高低の度合やタイミングをきちり合わせ、きれいな音、美しい音楽をつくりあげなければならぬ。吹奏楽にはそんなイメージがある。しかしそれは全く違うのがこの「ママさんブラスバンド」だ。

このママさんブラスバンドの1番の特徴はママにも子どもにも優しいこと。

月に二回の合奏は午前中に行われるため主婦でも集まりやすい。また子どもたちもママ達が練習している間、そばで安心して遊んでいられる。それから、子どもたちは音楽とふれ合うことにより踊ったり歌ったりするようだ。全身で音楽を感じ楽しんでいよう我が子を見られるのも音楽が好きなママさんにとってうれしいことの1つである。

そんなアウトホームなバステトとしての音楽とは「何より楽しいもの」! 音楽の「タテ」「ヨコ」はなるべく合わせたいが、きいている人に音楽の楽しさを感動を伝えることが1番!

今までもこれからも音楽のパワーを届けろ!!



## バステト♡コンサート

コンサートを定期的に行なっていて、はじめのコンサートはアイニマであるイベントの前座だった。聴衆は少なかつたが、ステージに立てたことの喜びが大きかった。それから回数を重ね、だんだんとバステト自体の規模も大きくなった。しかしステージに立つことは増えても、そのときのきもち、興奮は初めと変わらない。毎回ステージに立てる喜びをかみしめて演奏している。



ママになっても音楽をしたい! という方はコチラまで!!

☎ 0898-22-5597 (河上楽器店内)

✉ bastet\_ahime@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://music.geocities.jp/ahime-bastet/>

## 編集後記

3人とも吹奏楽の経験者があったことから取材先に選んでました。実際に行ってみるとみなさん生き生きと演奏していて、その笑顔からは心から音楽が好きなお様子が伝わってきました。たぶんの人、とくにママや子どもたちにこの音をきいてもらいたい!!

壺内晴香、岡本葵、篠原菜々子



# ◇ 輝く二人 ◇

## 近藤まゆみさん

下の子の器音が中心で同じ年の子  
り手がわかる。向き合っている上の子に  
寂しい思いをさせず、そんな悩みを抱え  
ながら子育てに、楽しくなることあったのか



「当時、話を聞いてもらい、変えられた。話を聞くことで元気になる  
た。悩みは多岐で、抱える課題もそれぞれだが、集い、語ることで  
子育て中のママがリフレッシュできるとこの団体を立ち上げた。日々、  
前向きにはなるような「子育て講座」、音楽を通して輪をのびる「音楽交  
流会」アドバイザーをお招きして子育て相談、座談会等を主宰する。子育て中  
の悩みに自分も向き合っているから、「何かできることはないか」と思い立つ。  
しかし昨年は結成したばかりということもあり、あらゆることば平探り状態で  
あった。同時に彼女はそこの中で大事なことを学んでいた。1つは子育て  
はたくさんの人に助けられてこそものだと。もう1つは、母親が自  
分の子どものいいところを分かってあげることが何より大事であること。

## 子育てグループ「ひなたぼっこ」

子育てグループ「ひなたぼっこ」は、代表の近藤まゆみさんのもと、  
2012年4月に結成された団体である。主な活動  
は、ママたちのおしゃべり会、子育て講座、音楽会による

講座会、相談、座談会など、  
ママたちがリフレッシュできるような  
活動をしている。



子育てグループ「ひなたぼっこ」代表 近藤まゆみ  
tel. 090-7143-0105 e-mail. hinatabocoboco@gmail.com

## 近藤美和子さん

子どもの動きに合わせて音を選ぶ。一人一人の気持ち  
に寄り添うように音を奏でる。ただ、音を出せばいいの  
ではない。音に人の想いをのせていく。それが音楽療法  
士だ。全国で2000人程、今治市には唯一の音楽  
療法士が近藤美和子さんだ。彼女が向き合うのは、様々  
な病気や障がいを持つ子ども達。「誰のやりかたも難しいからこそ、  
音でどうにか繋がった瞬間はとて感動し、嬉しい。」と語り

「確かに美和子さんの息づかいが、出す音に合わせて子ども達が  
体を動かしたり、表情を変えたりする瞬間があった。子ども達  
は少しづつではあるが確実に変  
化していく。楽器演奏がどういった  
や、時には言葉も発したりもある。  
そいつは子ども達の変化にお母さん達が  
気づくことが大切なのである。



## 編集後記

「音楽療法士」というワードに興味をもったのがきっかけで  
取材先に選んだ。取材先では子ども達が生き生きと音楽に  
のって楽器を演奏したり、音楽療法士の近藤美和子さんの動  
きに合わせ体で動かしてとて楽しそうだった。音楽の  
力はとてすごいものだと強く感じた。

- 杉村 幸一
- 竹井 李樺子
- 川崎 琴実



技術を生かして!

# 今治美容師協会



航路の廃止、百貨店の閉店... 今治から活気が消えつつある。そんな近年の状況に危機感を持ち、自らの職業をいかにして、取り組む団体がある。今治市の美容師が集り「今治美容師協会」だ。ファッションを通して、まちを盛り上げる取り組みを聞いた。

## 今治美容師協会とは?

結成... 去年11月

今治美容師協会の若手を中心にメンバーが実行委員会を結成。他の異業種が支える実行委員会形式で活動をしている。

『女性をキレイにしたい』仕事をすることでいつも持っているマインドが、まちづくりにも役立つことを知った。様々な人の力が集結し、一つの作品をつくる。

## 篠崎さんヘアデビュー!

美容室フリーワの店長  
母親が美容師だったので、自分も美容師を目指す。



問い合わせ先  
TEL 0898-22-1033 (篠崎)

Q1 活動していて楽しいのは?  
A. 活動を通して、モデルさんたちの笑顔を見ることか、できること。そして出る人が楽しむだけでなく、見ている方も刺激をもたえることが楽しいところです。



Q2 困ったことは?

A. 知名度がまだ低く、そのために活動について周りの人に理解されにくい状況です。

Q3 活動に対するモットーは?

A. 苦しいことをつらいと思うか、チャレンジと思うか。何でもイメージの置き換えです。いつまでもチャレンジ!! ポジティブ!!



—活動—  
6月29日 土曜日  
今治土曜夜市  
ファッションショー!!

8月31日 土曜日

今治美容師協会さん  
も参加!!

法華寺さんでの  
本堂でヘアショー!!



## 編集後記

「夢サラダ」で「美技ing」というファッションを  
開催するという記事に興味をもったことが、  
取材をすることになったきっかけだった。

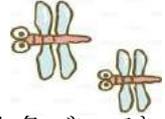
取材をしていると、思った以上に、様々な活動  
をしていて、その内容1つ1つが、とても魅力的  
だった!! これからもっと多くの人に活動を、  
知ってもらいたいと思う。



# NPO 現場体験ツアー だるまがえるが育むお米・収穫祭

人の営みによって受け継がれてきた里地里山の自然環境が、今、危機にさらされています。過疎化・高齢化により、増える耕作放棄地。荒廃農地は周辺の環境にも大きく影響を及ぼします。

「大三島の自然を守る会」(大三島町・菅則子代表)では、地域の里山・干潟・海などの手入れ、生き物観察会など、様々な活動・作業を行い、地域の保全に努めています。2年前からは、放棄地を利用して、田んぼ作りもはじめました。



## 思いのこもった・稲の収穫



夏から秋に季節が移り、「守る会」の田んぼの稲穂も色づいてきました。この田んぼは、希少生物の「ダルマガエル」のすみかとなっているところです。作付けをはじめて、2年目。去る9月1日(日)、2回目となる「稲刈り」に参加させていただきました。題して「NPO 現場体験ツアー」。地域住民が一丸となって取り組む活動を企画型で学ぶ取り組みです。夏休み最後の日曜日とあって、小学生を中心に親子等、30名が参加してくれました。

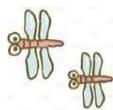
まずは「守る会」から、鎌の使い方をおそわりました。はじめて持つ鎌、田んぼに入るのもはじめての子ども達も。とまどいながらも一人一人チャレンジです。腰をおとし、足をしっかり踏ん張りながら、丁寧に刈り取っていきます。10本をまとめ、縄でしぼる作業は大人と一緒に協力。要領を得て、小学校低学年の子ども達も上手に刈り取っていました。



お母さんの手さばきを見てチャレンジ。



稲をかっていくと、かえるがピョンピョンはねます。お目当ての「だるまがえる」でしょうか。ここは専門家の出番。「守る会」と共に、保全活動に協力する「NPO 法人森から続く道」の小澤潤先生が確認。ペロンとお腹が上になるように、かえるをひっくりかえします。お腹が白いと「トノサマガエル」。「ダルマガエル」は黒い斑点があるんだそう。子ども達は夢中で探します。しかし、なかなか「ダルマガエル」は見つからない……。子ども達が数十匹は捕まえ、「あ～、また違った」と落胆しては逃がします。「トノサマガエル」も、実は身近な田んぼから姿を消している生き物。でも、この田んぼにはしっかり戻ってきています。周りには、バッタやとんぼ、いなごなどもたくさん生息していて、虫取り網が欲しいって声も。

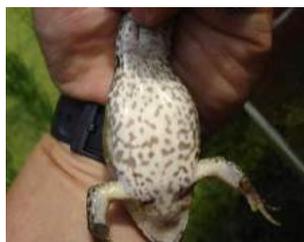


Check

トノサマガエルとダルマガエルの見分け方  
お腹に色の注目！



トノサマガエル



ダルマガエル





## この日を迎えるまでに・・・

土づくり、水入れ・田植えから、やっとの思いで迎えたこの日。「守る会」の皆さんの感慨はひとしお。そう、稲ができる道のりは長い！田んぼには、稲の他にもたくさんの雑草が生えてきます。通常は除草剤をまいてしまいます。しかし、この田んぼは無農薬。「守る会」では、まさに人海戦術で、田植えと同様、一本ずつ草を抜き取っていきました。この作業が本当に大変。しかし、皆の力を結集し、無農薬に努めてきたおかげで、ゲンゴロウやミズカマキリといった水生昆虫も戻ってきています。



## ランチタイムは新米もいただきました

力を合わせての収穫。1時間程で完了しました。みんなにっこり笑顔です。収穫したお米は、どうやったら食べられるの？「今日、刈り取ったのを、食べられるの？」なんて思っている子ども達も。収穫した稲は、乾燥し、もみをとる・・・と、私たちの手元に届くような状態になるにはまだまだ作業がたくさんあります。何気なくいただいているお米に、農家の皆さんの愛情と時間がたっぷりかっていることを学ぶ子ども達。

この日は何とラッキーなことに、「守る会」が先に収穫したお米でランチを準備してくれました。参加者みんなが、今年初めての新米！一緒にいただいたかぼちゃの煮物、いもの天ぷら等の秋野菜も、全部、お母さん達の畑でとれた地野菜。朝、畑でとってきて、食卓に並べてくれた贅沢なランチタイムとなりました。



## 生物多様性の意義をフィールドで体感

ランチタイムを利用して、小澤潤先生からのミニ講座。子ども達には少し難しい「生物多様性」がもたらす恵み、保全の大切さを分かりやすく説明くださいました。食料や水、気候の安定等、今の私たちの暮らしは、多様な生き物が関わり合うことで成り立っていること、人間もその生き物の一つであることを学びました。

今、猛スピードで生き物が姿を消している・・・。ここ大三島は多様な生物の生息が確認されるホットスポットです。せっかく訪れた大三島。フィールドに出てみよう！現場体験のフィナーレは、田んぼから続く干潟を観察です。兵庫県相生市では天然記念物指定のシバナ、愛媛県と徳島県の数箇所にしか生息しないチャボイ、塩田跡に大群落するカワツルモ等を教えていただき、参加者一同、大きな発見と感動をいただきました。



▲遺伝子・種のバランスで成り立つ暮らし。崩れてしまう危機に！



### 大人の感想

- 今日の体験は子どもが成長する上で必要なことだと感じた。
- 地域の人を中心の活動で、他ではあまり体験できないと思った。
- 貴重な生き物を守り、次の世代へ残すために、できることを考えたいと思った。

### 子どもの感想

- いろいろな生き物があることが、人の生活につながっていることがわかった。
- ダルマガエルを見つけたかった。また、大三島に来たい。



## 地域目線の助成情報がまとめて聞ける！

# 平成26年度 NPO・ボランティア助成プログラム説明会

地域に根ざし、継続的に活動するための大きな課題である資金獲得。団体の運営体系に合う資金獲得を目指す中、新規・発展的活動に活用したい「助成金・補助金」の説明会を開催した。助成プログラムの情報がうまくキャッチできない、思いの羅列でうまく申請書が作成できない等の悩みに、助成プログラム担当者から直接、助言をいただける機会に参加者一同、熱心に耳を傾けた。

日時：平成26年3月15日（土）13：00～17：00  
 会場：今治市総合福祉センター 愛らんど今治4F 多目的ホール1  
 （今治市南宝来町1丁目9番地8）  
 参加者：31名（21団体）



### 【第1部 助成金とは何か】

#### 「外から」の「支援」を得るために

本研修会は7つの資金提供者から助成情報を直接聞く機会。活動を支える資金には、会員（内部のメンバー＝内から）からの「会費」、サービスや商品の対価である「事業収入」等、自助努力で確保可能なものもあるが、「助成金」は外部の財源に依存。つまり、団体だけの思いだけでなく、資金提供者の思い（＝公益的目的）を想像することが大切であることを確認し、講義ははじまった。



#### 整理：NPO等の活動資金

種類	外発的 内発的	支援？ 対価？	提供者の成 果への期待	団体ミッシ ョンとの整合
会費	内	支援/対価	○	◎
寄付金	外	支援	○	○
自主事業	内	対価	△	？
委託事業	外	対価	◎	△
助成・補助	外	支援	◎	○

#### 新規事業や事業改善に活用すべき

自助努力で確保する性質ではない助成金。「助成金に当たった」という言葉を発する人もいるように、獲得できるかどうかは不安定だ。経常的な運営のためのお金や毎年続けているイベントの経費として“あて”にするのは難しいことが、この性質から分かる。「新規事業の開始・事業の改善のために獲得・活用すべき」と、トヨタ財団 大庭氏からは繰り返し、メッセージが発せられた。

### 【第2部 助成プログラムの紹介】

<p>●赤い羽共同募金 ボランティア・NPO活動支援事業 (社)愛媛県共同募金会 * 県民の募金を財源にした制度 * 上限 30 万円・3/4 助成</p>	 <p>地域のつながりづくりに寄与する活動を積極的に支援したい。「事業名が抽象的。長くなってもいいので分かりやすい事業名を！」  <b>Q.事業名が大雑把な提案書が多い？</b>  <b>A.～なまちづくり・・・のような名はNG。助成金を使って「何を・どうする」か具体的に書くことをお勧め！</b></p>
<p>●共同募金配分金事業 (今治市社会福祉協議会) * 共同募金財源を活用した今治市社協の支援制度(今治市旧市内対象) * 上限 20 万円・10/10 助成</p>	<p>地域の安心した暮らしを住民の参加や協力で作っていく、地域課題解決型の事業を重点的に支援したい。「“市民の手でまちを良くしていこう！”という思いを応援したい！」  <b>Q.機器の整備などには使える？</b>  <b>A.使えない。ハード整備はNG。</b></p> 
<p>●コープえひめ福祉活動基金 (生活共同組合コープえひめ) * 組合員の生協利用の剰余金積立 10 年余りをかけ、財源 1 億円到達 * 上限 10 万円・10/10 助成</p>	<p>地域も団体もよくなる取組を支援。組合員に活用を知らせる報告会も開催。「助成金申請初チャレンジというような小さな団体も応援したい！」  <b>Q.選考される事業のポイントは？</b>  <b>A.地域に埋もれているような課題を拾いたい。過去の事例でも、審査委員一同が初めて知った地域課題もあった。</b></p> 

<p>●愛媛県「三浦保」愛基金 (愛媛県保健福祉課)</p> <p>*三浦工業株の寄付を財源にした基金</p> <p>*特別枠上限120万円・3/4助成 一般枠上限30万円・10/10助成</p>	 <p>1回限りではない、モデルケースとなるような案件を支援したい。「社会への恩返し」という寄付者の思いをいかし、基金を育て、次の活動者につないでいくような取組を支援したい！」</p> <p>※採択率7割と高め！県が広報も含め、サポートしてくれる心強さあり！ ※採択後は応募内容に忠実に実施して欲しい。変更等は早めの連絡を！</p>
<p>●公益信託伊予銀行環境基金 「エバグリーン」(伊予銀行)</p> <p>*自然環境保護目的の公益信託</p> <p>*上限50万円・10/10助成</p> <p>●伊予銀行地域文化活動助成制度もあり</p>	<p>丁寧に分かりやすい書類を！書類づくりから支援するので気軽に相談を。「認知度が低めで応募数はまだまだ。近くの支店の門をたたいて！」</p> <p>Q.「文化」助成の「ボランティア色の強いものはNG」は？ A.2制度あるので区分あり。ただ、趣旨が大事なので枠に捕われず相談を。※活動領域を超えた提案もあり。福祉団体が環境事業を遂行するケースも！</p> 
<p>●今治市市民が共におこすまちづくり事業補助金(今治市)</p> <p>*今治市の補助制度(今治市対象)</p> <p>*市民活動推進上限50万円・7/10助成 協働推進上限100万円・1/2助成</p>	<p>今治市を個性的で魅力あるまちにする継続的な取組を支援。「活動終了後2年間はその後の活動の様子を発信！波及効果が欲しい！」</p> <p>Q.まちづくりというのは幅広いが、特にポイントは？ A.公益性が評価基準として大切。取組をまちの魅力形成につなげて！※プレゼンもポイント。テクニックとして「結論からはじめ、結論で終わる！」</p> 
<p>●あつたか愛媛 NPO 応援基金 (愛媛県男女参画・県民協働課)</p> <p>*県民の寄付を財源にした基金</p> <p>*協働事業上限50万円・10/10助成 団体支援上限20万円・10/10助成</p>	 <p>NPO 法人限定だが、基盤整備に活用OK・まずは登録を！事業助成枠の拡充で支援！</p> <p>「団体リーフレット等の添付資料も大歓迎！申請はもちろん活動アピールを！団体の存在のアピールが次の助成につながったケースもあり。」</p> <p>※愛媛未来づくり協働提案事業 新ふるさとづくり総合支援事業等もある。</p>
<p>●四国環境パートナーオフィス</p> <p>*環境省が設置する環境パートナーシップ推進拠点</p> <p>*環境助成制度・四国内の環境団体情報を発信中</p>	 <p>●瀬戸内オリーブ基金 10～200万円・ユニクロ募金箱まここへ。 ●地域活性化を担う環境保全の協働賦課促進事業 上限1000万円 他 ※助成金だけではなく、多様な受賞制度あり！積極的に応募を！ ※中央の助成先・国の機関は「中間支援組織」に情報を求める！日頃から、アピール＆つながりづくりを！</p>

【第3部 企画書づくり(ワーク)】

※「書きたいこと」を「書きたいように」書いてもダメ！

申請前に、団体・事業の再点検から！

「相手の知りたいこと」を「わかってもらえるように」が大切

申請書には多様な様式があるが、「①問題意識(課題・解決への使命感)、②活動の目的、③活動の内、④成果・波及効果」が網羅されている。今回はこれを念頭に「助成金応募準備ワークシート」を活用し、筋道(ストーリー)が明確な申請書づくりにチャレンジした。応募シートを埋める作業の中では、必ず、これまでの活動を点検し、それを踏まえた次の活動をイメージすることが必須だ。次の活動の中で「新規事業・活動改善」にあたる事業で応募を検討！分かりやすい言葉で具体的に書くことを心がけながらワークを進めた。



▲審査委員は決して専門家ではない。素人にも分かる言葉で書くことが大事。



▲「課題」「なぜその課題に取り組むか」が整理できるチカラを。地域を意識すべき。



▲活動の点検をし、申請前に「本当にこの助成金が必要か」自らに問う姿勢を。

**[アンケート結果]**

29名/参加者30名・説明者3名(回収率88%)

① 説明会について(複数回答可)

興味が持ててよかった	19
よかった	9
興味が持てなかった	0
課題が具体的になった	13
課題解決のヒントがあった	9
情報交換できた	8

[よかった点]

- ・一つ一つの話がじっくり聞けた。
- ・知らなかった助成制度の内容が分かった。
- ・担当者から直接案内が聞け、今後の参考になった。(2)
- ・助成金提供側の話が聞けたこと。(2)
- ・助成金に対する考え方、理解が深まった。
- ・トヨタ財団講師の以前、講座を受けたので、各助成プログラムで興味が持てた。
- ・具体的に助成金のしくみがわかった。
- ・助成金＝単に資金確保という見方しかしていなかった。自分たちの活動を見直す機会が持てて良かった。
- ・課題が見えてきて、助成探しから始めていこうと思った。
- ・助成金だけでなく、刺激を受けた説明会だった。
- ・助成金を受け取る心構えを知ることができた。
- ・自分の中で具体的にになり、今後への見通しがついた。
- ・分かりやすく勉強になった。

②特に興味を持ったこと(複数回答可)

トヨタ財団によるミニ講座	12
各助成プログラムの説明	17
ワークシート作業(ワーク)	12

[講師や助成プログラムへのメッセージ]

- ・ワークシート作りは分かりにくい点多々あったが、とても参考になった。
- ・ワークショップは難しかった。団体としての問題点(問題意識)なのか、助成金を考えての問題点なのか、その辺が分かりづらかった。
- ・恥ずかしい文章力で読まれるのが辛かったが、適切にアドバイスをもらえてよかった。

- ・やってみようという気になってきた。
- ・説明された方とも、参加者とも出会えて良かった。
- ・気軽に相談できて、申請の際のポイント等、押さえておくべくことがよく分かった。
- ・非常に丁寧な接し方、話し方で好印象。
- ・トヨタ財団の大庭氏:各説明発表後の質問がいい。疑問が残らず次に進めた。聞きたいことを聞いてくれた。事務手続の説明に踏み込み、参考になる意見が聞き出せた。
- ・NPO法人、活動助成事業 etc 聞いたことある言葉だった。勉強になった。
- ・中間支援の活用に興味を持った。県外の助成金を活用する意味で。
- ・パワーポイントの説明が分かりやすかった。
- ・色々なプログラムが準備されていて良かった。
- ・去年より聞きやすかった。

[改善点]

- ・今治市外から来ている。説明の順序として、全員が対象となる助成金の話を先に、限定される応募のものは後に。
- ・一部のプログラムにはあったが、実績の団体例があればもっと良かった。
- ・対象(NPO法人、社福、任意もOK)等について、一覧表があると助かる。



- ・具体的に審査基準などを説明してもらい大変参考になった。自分たちの考えを整理できる良い機会となった。
- ・大変勉強になった。素人の自分にとって大切な一歩となった。
- ・具体的でわかりやすかった。
- ・良く分かった。優しいお顔が見られてよかった。
- ・大庭さんのコーディネーターは適確でとても良かった。ポイントがつかめた。

### ③ 助成プログラム説明会開催の継続

必要だと思う	26
内容による	17
必要ないと思う	0



#### [開催時期について]

- ・忙しい時期。3月初めか2月末に。
- ・もう少し早い時期に1月～2月ぐらい。(4)
- ・2月希望。2月の方が。準備期間にもなる。(3)
- ・年度初めもいいかも。
- (3月は決算期のため・応募締切が3月末のところもある・年度末で担当者が変わる可能性も)
- ・良かった。(2)
- ・タイミング的にいい。新年度計画を立てるのに良い時期。

#### [説明内容について]

- ・10:30～(お昼休憩)～15:30くらいとしては？お昼休憩時間に助成担当者と個別相談できるかも。
- ・助成プログラムの説明時間が長い。目的や条件等を共通様式にまとめた資料を配付し、一括して事務局で説明、個別質問を各担当が受けて補足するという形はどう？
- ・福祉系と事業系を分けた方が。説明が長くなるのを工夫することが必要。ポイントが絞りやすくなる運営を。
- ・個別の説明ポイントにもう少し時間をとってほしい。
- ・ワーク→グループディスカッション等もあると嬉しい。
- ・ワークショップは、グループ討論がいい。スクールでなく。
- ・良かった。(4)
- ・良かった。ぜひ継続を。
- ・ボランティアスキル向上の研修等の情報があれば。
- ・県外のものも説明するといい。
- ・昨年より良かった。
- ・今まで知らなかったプログラムもあり、良かった。
- ・具体的で良かった。

#### [その他]

- ・駐車場がいっぱい。地図に駐車場の場所を事前に分かりやすく載せてもらえると少し余裕を持って来られる。
- ・今治市外でも開催して欲しい。
- ・西条市でもお願いしたい。
- ・南予でも開催してもらいたい。



#### (4) 市民活動団体相互の交流推進業務

	<p>◆使用者協議会</p> <p>平成 25 年 4 月 18 日（木）10：00～11：30 参加者：12 名</p> <p>事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火・避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今治市民活動センターの運営方針を共有、賛同いただくと共に、使用者は互いの活動を報告しあい、助け合って事業推進したいとの意見が出された。</p>	
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員	
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今治市内の団体の活動紹介の場とする。</li> <li>・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとした。</li> </ul>	
結果課題	<p>「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。</p>	

#### (5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。	
対象	<p>ボランティアの応援を求めている組織・個人</p> <p>ボランティア活動をしたい方</p>	
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。</li> <li>・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。</li> </ul>	
結果課題	<p>初めて来館するボランティア活動希望者 161 件ボランティアを受け入れたい組織・個人 267 件のコーディネーションを行った。これまでボランティア活動のきっかけづくりを目的に、夏休みや冬休みに活動を集約して発信する「サマーボランティア・キャンペーン」「ウインターボランティア・キャンペーン」は、今年度から形式を新たに「ボランティアチャレンジ 2013」（愛媛県主催）として参加者を募集。その窓口の機能を果たすことで、今治市内の情報のみならず、愛媛県下の情報の発信や需給調整にも務めた。ボランティアコーディネーションを通して、市民活動団体が多様な人を巻き込み、活動を発展させることができるよう引き続き、調整をしていきたい。</p>	

## (6) 相談業務

内容	<p>団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。3年目となる支所単位での「出張相談会」は、相談件数は5件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度も島嶼部4島・6か所で開催した。</p>																		
対象	市民団体・行政職員																		
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。</li> <li>・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。</li> <li>・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。</li> </ul>																		
結果課題	<p>団体設立や運営など、173件の相談に電話・メール・来所にて対応した。「ネットワークづくり」「マネジメント」「資金調達」などについての相談が寄せられ、情報提供・サポートを行なった。相談に答えるだけでなく、相手の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応した。「NPO法人設立」の事務的な相談件数が増加したことを受け、相談者に情報を提供する紙媒体の掲示物を充実させた。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても明るく親切に対応していただいている。</li> <li>・電話相談でも、丁寧に教えてくれる。</li> <li>・情報がたくさんあって、頼りになる。</li> </ul> <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。昨年に続き、島嶼部に限定して自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。島しょ部をメインフィールドに開催される「瀬戸内しまのわ 2014」の民間企画提案についての相談、各支所に配属されている地域起こし協力隊隊員からの相談等、農漁業をいかした旅行者受入等の交流人口拡大による地域活性化に資するプログラム開発の相談が多く寄せられた。</p> <table border="0"> <tr> <td>吉海会場</td> <td>7月3日(水) 10:00~12:00</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>宮窪会場</td> <td>7月3日(水) 13:30~15:30</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>伯方会場</td> <td>7月4日(木) 10:00~12:00</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>上浦会場</td> <td>7月10日(水) 10:00~12:00</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>大三島会場</td> <td>7月10日(水) 13:30~15:30</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>関前会場</td> <td>7月11日(木) 10:00~12:00</td> <td>0件</td> </tr> </table>	吉海会場	7月3日(水) 10:00~12:00	1件	宮窪会場	7月3日(水) 13:30~15:30	0件	伯方会場	7月4日(木) 10:00~12:00	2件	上浦会場	7月10日(水) 10:00~12:00	1件	大三島会場	7月10日(水) 13:30~15:30	1件	関前会場	7月11日(木) 10:00~12:00	0件
吉海会場	7月3日(水) 10:00~12:00	1件																	
宮窪会場	7月3日(水) 13:30~15:30	0件																	
伯方会場	7月4日(木) 10:00~12:00	2件																	
上浦会場	7月10日(水) 10:00~12:00	1件																	
大三島会場	7月10日(水) 13:30~15:30	1件																	
関前会場	7月11日(木) 10:00~12:00	0件																	

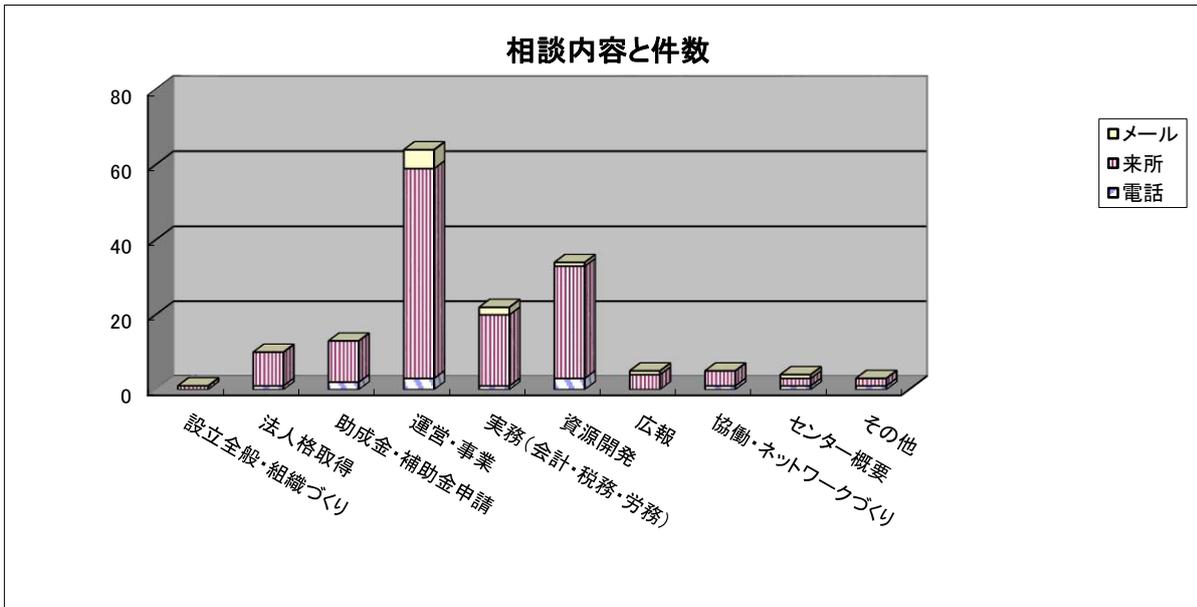
## (7) まちづくりサポーター業務

内容	<p>仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。</p>
対象	<p>ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方</p>
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。</li> <li>・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。</li> </ul>
結果課題	<p>ボランティア活動希望者が相談に訪れた際、希望の活動やいかしたいスキルを発揮できる活動がない場合には、まずはサポーターとして登録いただき、マッチングの機会を伺った。イベント開催時に、コーディネーションをする等、個別のニーズを汲んだ橋渡しをすることができた。</p>

相談状況詳細

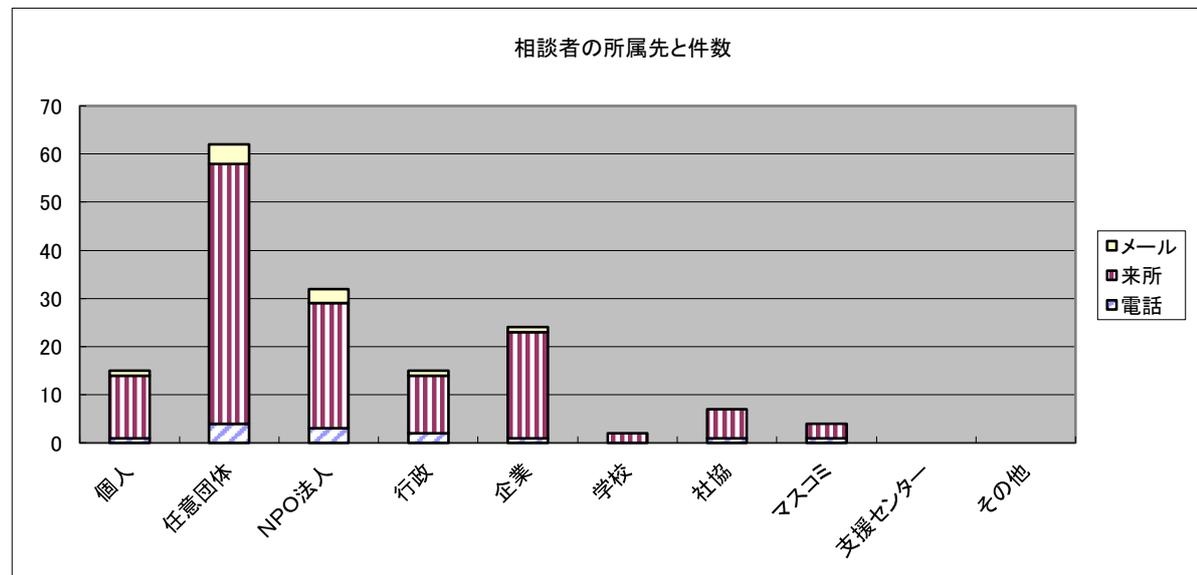
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	0	1	0	4
法人格取得	1	9	0	30
助成金・補助金申請	2	11	0	22
運営・事業	3	56	5	21
実務(会計・税務・労務)	1	19	2	0
資源開発	3	30	1	11
広報	0	4	1	12
協働・ネットワークづくり	1	4	0	29
センター概要	1	2	1	12
その他	1	2	0	7
合計	13	138	10	161



【相談者の所属先と件数】

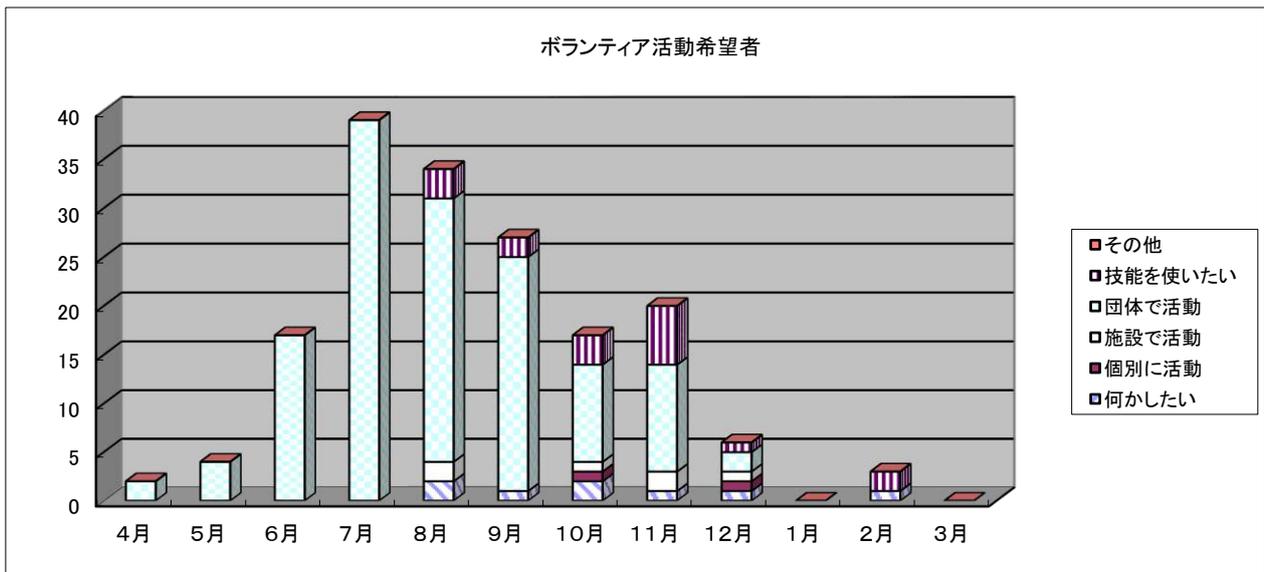
	電話	来所	メール	合計
個人	1	13	1	15
任意団体	4	54	4	62
NPO法人	3	26	3	32
行政	2	12	1	15
企業	1	22	1	24
学校	0	2	0	2
社協	1	6	0	7
マスコミ	1	3	0	4
支援センター	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	13	138	10	161



コーディネート状況詳細

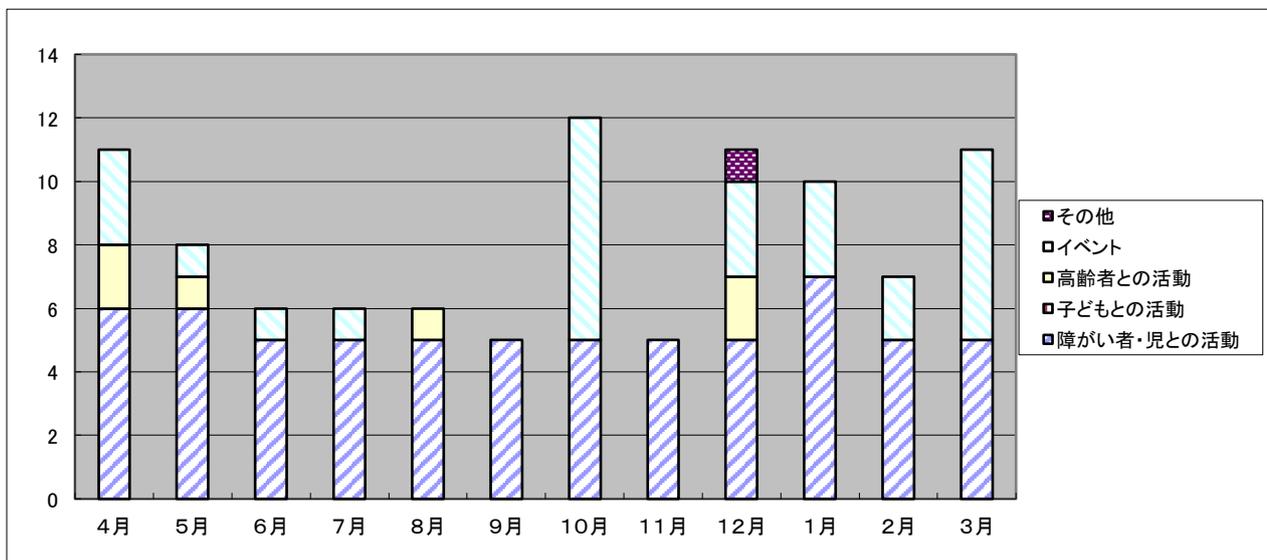
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	0	0	0	0	2	1	2	1	1	0	1	0	8
個別に活動	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
施設で活動	0	0	0	0	2	0	1	2	1	0	0	0	6
団体で活動	2	4	17	39	27	24	10	11	2	0	0	0	136
技能を使いたい	0	0	0	0	3	2	3	6	1	0	2	0	17
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	4	17	39	34	27	17	20	6	0	3	0	169



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	6	6	5	5	5	5	5	5	5	7	5	5	64
子どもとの活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者との活動	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	6
イベント	3	1	1	1	0	0	7	0	3	3	2	6	27
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	11	8	6	6	6	5	12	5	11	10	7	11	98



## 今治市民活動センター登録団体アンケート結果

市民活動の拠点として、今治市が設置し、指定管理者「NPO 法人今治 NPO サポートセンター」が管理運営をしている当センター。登録団体と同じ目線で、ボランティア活動のきっかけ提供、組織の基盤強化等、多様なニーズに寄り添いながら機能を確認して参りました。この度、登録団体の活動状況や声をいかし、地域に根ざしたセンター運営への参考とすることを目的にアンケートを実施しました。ここにいただいたご意見を皆様へ還元し、よりよいセンター運営へ役立てる処方箋とする所存です。アンケート後半は、市民が共におこすまちづくりの施策化を進める今治市との関係性等へも意見もございます。協働事業への期待を感じる興味深い資料となっておりますので、是非、ご活用ください。

最後にご協力いただいた登録団体の皆様に回答へのご協力を改めて御礼申し上げます。

### 1. 対象者

今治市民活動センター登録団体 113 団体

### 2. 方法

登録団体へアンケート用紙の送付。郵送・FAX・メールにて回収。

### 3. 期間

平成25年11月1日～11月30日

### 4. 有効回収数（回収率）

104 団体（92.0%）

### 5. 実施者

今治市民活動センター指定管理者：特定非営利活動法人今治NPOサポートセンター

## ◆基礎データ◆

### 1. 2014 年度以降の登録の状況

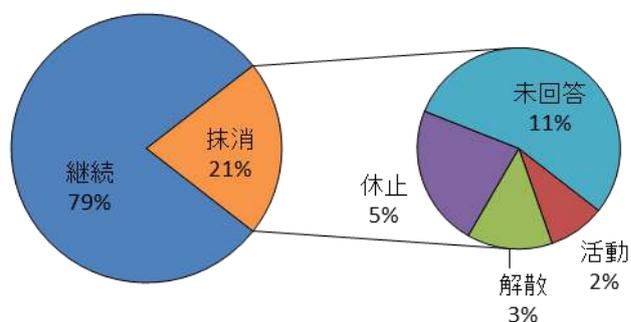
(団体)

登録を継続する	82
登録を抹消する	22

### 2. 登録抹消団体の活動状況

(団体)

活動している	2
解散している	3
活動を休止している	5
未回答	12



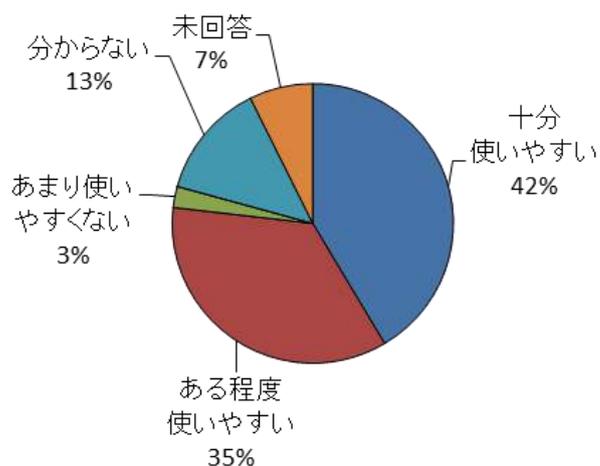
## 【調査 1】施設に関すること

### 問 1. 施設（事務所・会議室）の使いやすさについて

情報提供希望、ネットワーク構築等を目的に登録している団体は、日常的な会議室使用がないため、「分からない」「未回答」が 20%となったが、使用している団体からは「使いやすい」との回答をいただいた。無料で気軽に使える利便性へ高い評価が寄せられた。キッチンがある大会議室を中心に、中会議室の稼働率も高い。「狭い」という意見は毎年寄せられるが、既存建物の有効活用をベースにした開館業務に理解を求めている。

(団体)

十分使いやすい	34
ある程度使いやすい	29
あまり使いやすくない	2
使いにくい	0
分からない	11
未回答	6



#### ● 「十分使いやすい」と答えた方の意見

- ・無料で使える。
- ・キッチンがある。
- ・遅くまで使える。
- ・直前の申込でも使用できる。
- ・駐車場が広い。
- ・調度良い広さ。
- ・冷暖房がある。

#### ● 「ある程度使いやすい」と答えた方の意見

- ・広さを選べる。
- ・市内に近く集まりやすい。
- ・直前の申込でも使用できる。
- ・時間を融通してもらえる。
- ・駐車場が広い。
- ・もう少し広さがほしい。
- ・空調の設備利用に不便さがある。

#### ● 「あまり使いやすくない」と答えた方の意見

- ・狭い。

#### ● 「分からない」と答えた方の意見

- ・利用したことがない。

#### ● 「分からない」と答えた方の意見

- ・利用したことがない。

(※ 自由記述の意見は、文体統一等の為、一部、加筆、修正しています。)

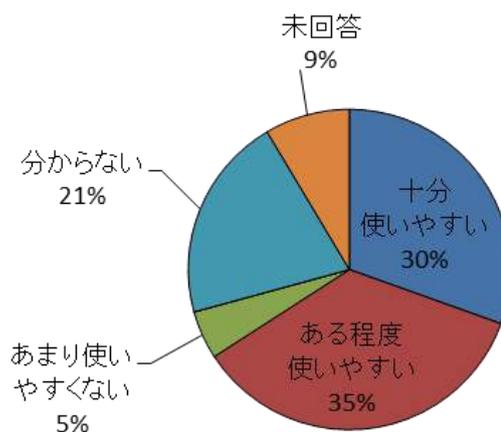
## 問2. 設備・備品類の使いやすさについて

問1と同様、日常的に設備・備品類を使用していない団体の「分からない」「未回答」が30%となったが、使用経験がある団体からはほぼ「使いやすい」との回答を得た。オープン以降、使用団体との対話を重ね、必要な備品を1点、1点整備してきた。印刷機、紙折り機、裁断機、シュレッダー等の備え付け備品をはじめ、プロジェクター、スクリーン、ビデオカメラ等の貸し出し備品もほぼ整っており、有意義に使用いただいている。

長期的には建物の老朽化等、施設の修繕等の必要性も考えられるが、施設・備品を大切にしながら、登録団体の皆さんの活動に長く役立つよう努めていきたい。

(団体)

十分使いやすい	25
ある程度使いやすい	29
あまり使いやすくない	4
使いにくい	0
分からない	17
未回答	7



### ●「十分使いやすい」と答えた方の意見

- ・プロジェクターや調度品、印刷できる設備もあり便利。

### ●「ある程度使いやすい」と答えた方の意見

- ・シュレッダーや紙折り機などが便利。
- ・空調設備は有料だが、使いやすい。
- ・ホワイトボードは便利。

### ●「あまり使いやすくない」と答えた方の意見

- ・明るさ、清潔さに乏しい。

### ●「分からない」と答えた方の意見

- ・備品をあまり使用しないので分からない。
- ・利用したことがないので分からない。

(※ 自由記述の意見は、文体統一等の為、一部、加筆、修正しています。)

問3-①. 講座・交流会について

未回答、「参加経験がない」を合わせると過半数となり、講座・交流会が一部の登録団体に限定したものとなっている。特に、4月の防火訓練、12月の施設大掃除等の季節行事に合わせて行っている登録団体を対象にした交流会は、事務室入館団体を中心に進めており、入館団体の横のつながりが生まれる一方、その他の団体とのネットワーク構築等にはつながっていない。一方、講座はボランティア市民や市民活動未経験層等、登録団体以外の市民を対象にした基礎講座が主流となっている。登録団体から聞こえてくる「活動者の固定化」「若者の参画不足」「ネットワーク不足」等の課題解決に資するため、活動への関心を啓発する講座を組み立ててきた結果である。

今後は、登録団体の参加率をあげることも視野に入れつつ、新しい人材の育成、市民活動への参加のきっかけづくり等、引き続き、求められる講座内容を具現化していきたい。

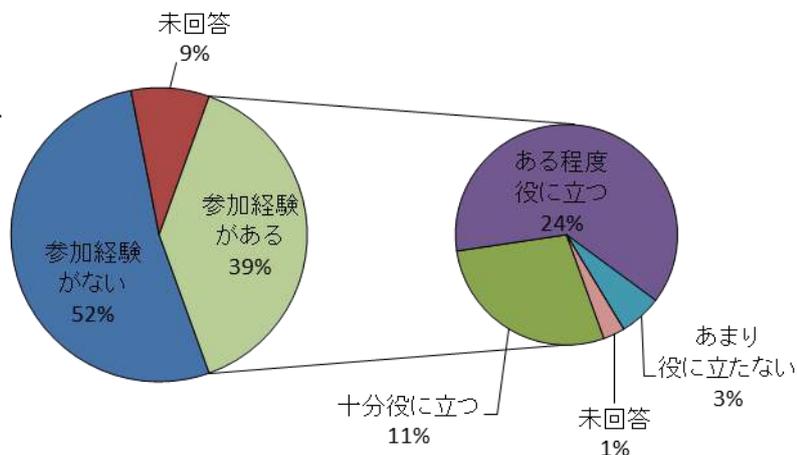
(団体)

参加経験がある	32
参加経験がない	43
未回答	7

②. 参加経験がある方の企画内容について

(団体)

十分役に立つ	9
ある程度役に立つ	20
あまり役に立たない	2
役に立たない	0
分からない	0
未回答	1



● 「十分役に立つ」と答えた方の意見

- ・有意義な会だった。

● 「ある程度役に立つ」と答えた方の意見

- ・互いの活動内容が理解できる。
- ・行政のことが少し分かる。

● 「未回答」と答えた方の意見

- ・色々な団体の活動内容が分かり、自分たちの活動に役立てられる。

(※ 自由記述の意見は、文体統一等の為、一部、加筆、修正しています。)

問4-①. 機関紙「夢サラダ」について

86%の団体に読んでいただき、「十分役に立つ」「ある程度役に立つ」との回答をいただいた。毎月発行する「得夢サラダ」は、翌月に開催するイベントや講座を気軽に掲載でき、自団体だけでは告知が難しいと感じている団体にとっては、情報発信の気軽な手段として評価されている。情報を求める市民への認知度も徐々に高まっており、「得夢サラダ」が市民活動の情報源として定着していることを感じる。引き続き、情報を重層化し、多様な市民に手にとっていただける誌面づくりを進めたい。

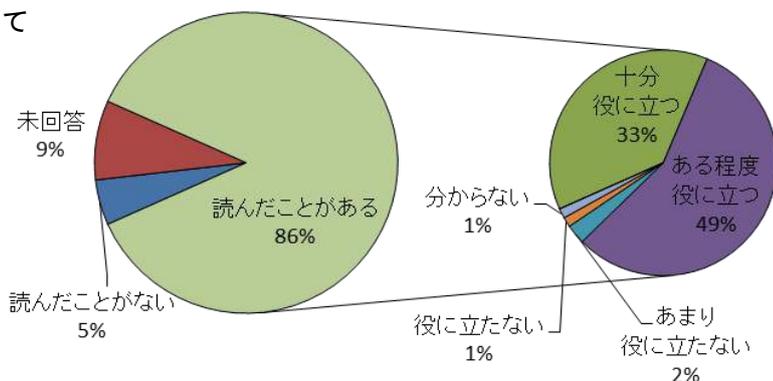
(団体)

読んだことがある	71
読んだことがない	4
未回答	7

②. 購読経験がある人へ誌面内容について

(団体)

十分役に立つ	27
ある程度役に立つ	40
あまり役に立たない	2
役に立たない	1
分からない	1
未回答	0



● 「十分役に立つ」と答えた方の意見

- ・「夢サラダ」でしか知りえない情報がある。
- ・他の団体の活動を知ることができる。
- ・助成金情報を知ることができる。
- ・事業内容等が正確に把握できる。

● 「ある程度役に立つ」と答えた方の意見

- ・他の団体の情報、助成金情報が参考になる。
- ・施設利用者に回覧している。
- ・内容に変化が少ない。

● 「あまり役に立たない」と答えた方の意見

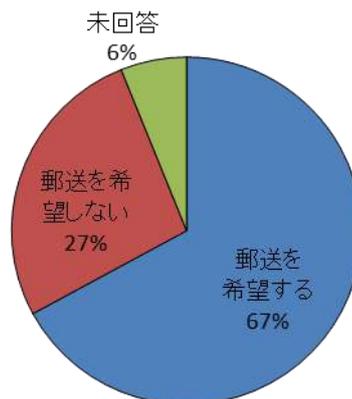
- ・今は利用や参加はできないが、情報を得るために読んでいる。

(※ 自由記述の意見は、文体統一等の為、一部、加筆、修正しています。)

③ 「夢サラダ」の送付について

(団体)

郵送を希望する	55
郵送を希望しない	22
未回答	5

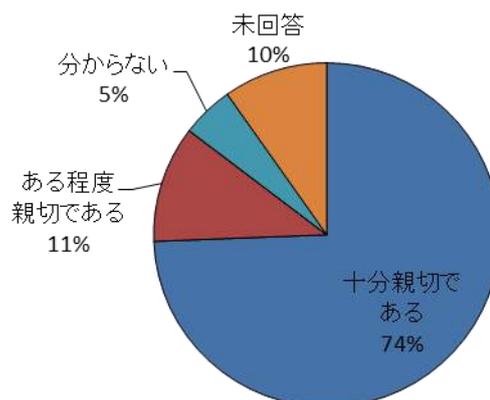


## 問5. スタッフの対応について

来館者への挨拶、施設使用時の接遇等、スタッフのマナー向上に努めてきた。また、相談やコーディネート業務等では、経験をいかした助言や専門家との橋渡し等、登録団体との円滑なコミュニケーションをベースに課題解決に資する取組を進めてきた。その結果、使用者には概ね満足のおい評価をお返しにいたしており、引き続き、適切な双方向の意思疎通に努め、明るい施設運営を実現したい。

(団体)

十分親切である	61
ある程度親切である	9
あまり親切でない	0
親切でない	0
分からない	4
未回答	8



### ● 「十分親切である」と答えた方の意見

- ・明るく親切。
- ・急な要請に対応してくれる。
- ・電話対応が良い。
- ・気軽に相談に乗ってもらえる。
- ・夜間の利用もさせてくれる。
- ・対応が良く頼みやすい。

### ● 「分からない」と答えた方の意見

- ・利用したことがないので分からない。

(※ 自由記述の意見は、文体統一等の為、一部、加筆、修正しています。)

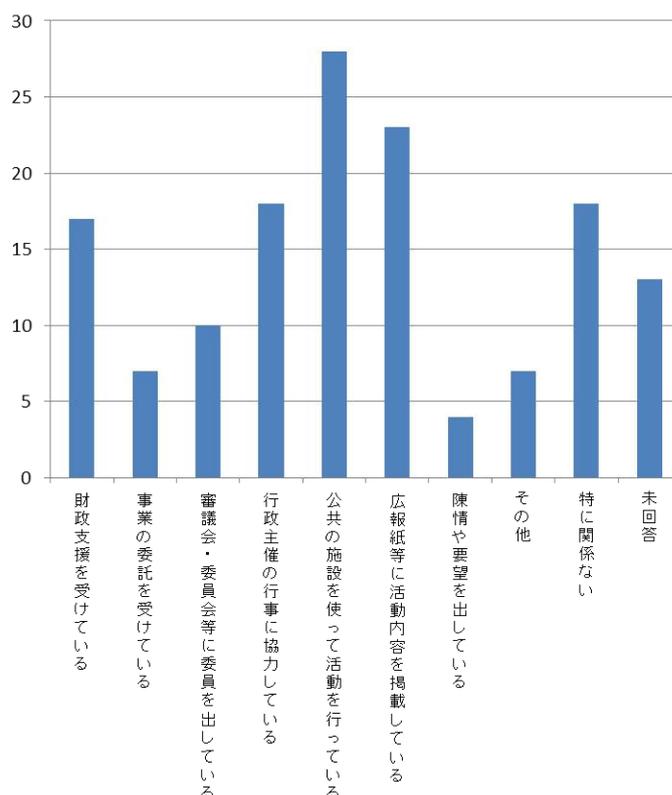
## 【調査 2】 行政とのつきあいについて

### 問 1. 現在の状況について（複数回答可）

自らの活動のミッションを実現する上で、行政との協働を求める声が多数寄せられた。活動を展開する上で課題となる、活動場所や活動資金の確保、情報受発信等の支援はしくみ化され、利用もされている。団体と行政の WIN-WIN の関係構築により、豊かなまちづくりを持続的に育む基盤を深化させていきたい。

(団体)

財政支援を受けている	17
事業の委託を受けている	7
審議会・委員会等に委員を出している	10
行政主催の行事に協力している	18
公共の施設を使って活動を行っている	28
広報紙等に活動内容を掲載している	23
陳情や要望を出している	4
その他	7
特に関係ない	18
未回答	13



### 問 2. 今後、今治市の事業との関わりで、協働できるものについて（自由記述）

(団体の力を貸せる)

- ・ 団体対象の研修会開催、ニーズの調査等。
- ・ 行政職員の皆様対象の講演会・研修会等。
- ・ 子育てや障がい者の支援に関する情報提供等。
- ・ 自転車旅行者の受入基盤づくり。(現在、しまなみサイクルオアシスを市内に整備している)
- ・ 横領、飲酒運転による事故等の陰に依存症が隠れている。排除するだけでなく根本的な病気の症状を知っていただくことで防げる事件がある。そのような話し合いの場を提供できる。
- ・ スポーツ教室等の開催事業。
- ・ 市民参加型のイベントに協力できる。
- ・ 今治市の観光事業に協力したい。(現在、ボランティアガイドをやっている)
- ・ 就労困窮者支援。
- ・ お茶会。
- ・ リサイクル運動。
- ・ 子育てに関すること。
- ・ 子育て支援や障害福祉の部門で協力できる。
- ・ 婚活に関わる内容のもの。
- ・ 来街者にタオルハンカチのぬいぐるみづくりを教えられる。活用して!
- ・ 難聴者や要約筆記の啓発。
- ・ お知らせ頂き、事業で関わり協働していけそうなものには一生懸命協力していくつもり。
- ・ 都合がつく限り参加したい。
- ・ イベントなどがあれば協力。(音楽関係で)
- ・ 赤い羽根募金活動をしている。
- ・ 市民清掃に参加している。
- ・ 子どもの農林漁業体験活動、あそび教室及びイベントでの遊びコーナー、夏休み宿題教室、伝統文化(百人一首)教室を主催できる。
- ・ 支援依頼に応じ、団体として協働実績あり。
- ・ 自団体の事業に後援をいただく等、協力あり。

(今治市への要望)

- ・各地域戦略等の情報提供。
- ・広報的支援。
- ・人材紹介。
- ・障がい者福祉に関わる事を応援して欲しい。
- ・市の事業には要約筆記を！高齢化率も高くなり、聴覚障がい者だけでなく役立てると思う。
- ・ボランティア祭のようなイベントが年一回欲しい。各団体も活動に拍車がかかると思う。
- ・介護予防事業・子育て事業に対して会員ができる支援があれば関わりたいので情報が欲しい。
- ・以前に提案して内容を前向きに対応、理解してもらえず先進性に疑問を感じる。
- ・今のところなし。
- ・よくわからない。

### 問3. その他市民活動推進の為のご意見について（自由記述）

- ・中央とのパイプ役が不在。国勢→県勢→市勢への流れがない。大きな視真が必要。
- ・行政と市民の接続機能。
- ・小さな子どもやお年寄りをかかえ外に出られない方々への援助が必要。参加したい人が増えるはず。
- ・子育て支援をしているが、我が子のことで手一杯になりがち。余裕がないのが現状。
- ・行政等に利用していただくことが会員のスキル向上につながるが、その機会が無い。行政がうまく市民グループを利用して欲しい。それが市民活動推進を図ることにつながるを感じる。
- ・会の目的は明るい豊かな社会の実現。今後も市民参加型の事業を展開し、まち全体を盛り上げていきたい。今治市にはご協力をお願いすることもある。是非、協力いただきたい。
- ・市民活動の紹介、市民活動によるイベント紹介など可能。積極的に利用していただければ。
- ・色々な分野の方々が協力し合い、よい町づくりを目指すことを心がけたい。
- ・自分たちの団体のことで手一杯で、協力できる機会がなかなかないのが残念。
- ・今のところは特になし。今後出てくるかも。
- ・他のNPOの活動を知る夢サラダの送付は大変参考になる。
- ・今後は交流会も参加したいので、いろいろ企画してもらいたい。

## 2. その他の事業

### (1) 情報提供事業

#### ①トークカフェ in ラジオバリバリ

期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

協力：エフエムラジオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業) 様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくくみの構築を感じた。

今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なくみを学んだりできるような展開を考えたい。

#### ■ パーソナリティは高校生ボランティアも参画 ■



放送部のスキルをいかしたボランティア活動に学校の理解も。

伝える内容を学習し、若さある視点を織り込んだ番組づくりに感



#### ②ホームページの運営

期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネート業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO 等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

### (2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 25 年 6 月 3 日 8 月 28 日 2 月 21 日	今治市廃棄物減量等推進審議会 (今治市)	平成 30 年 4 月からの新しいごみ処理施設稼働を念頭に、ごみの減量化及び資源化を推進する施策検討。

平成 25 年 5 月 17 日	中間支援組織ネットワーク会議 (愛媛県)	多様な主体による協働環境整備を 目指し、県内の中間支援組織や助成 団体の情報共有のために開催。
平成 25 年 10 月 30 日	今治市定住自立圏共生ビジョン懇 談会 (今治市) 専門委員委嘱	広域合併した今治市のビジョン懇 談において、市民活動・ボランティ ア推進への意見集約
平成 25 年 10 月 28 日 平成 26 年 2 月 7 日 平成 26 年 3 月 21 日	瀬戸内しま博覧会実行委員会愛媛 企画部会 委員委嘱	瀬戸内しま博覧会 (しまのわ 2014) のイベント、広報・誘客等の内容検 討。
平成 26 年 2 月 7 日	平成 26 年度県政テレビ広報番組放 送に係る企画コンペ審査会 委員委嘱	民間放送会社 4 社によるコンペ。視 聴しやすい時間帯、分かりやすく親 しみやすい番組か等を審査。

### (3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

日時	名称 (主催団体) /参加の立場	テーマ・目的
平成 25 年 6 月 23 日	特定非営利活動法人ナルク今治 総会 (特非 ナルク今治)	助け合いの輪を広げるしくみ「ナルク」の 今治支部の総会での意見交換への参加。
平成 25 年 7 月 21 日	天空の郷地域福祉フェスティバル in 久万高原実行委員会	生きがいや活力を持って、誰もが安心して 暮らせる地域づくりを目指すフォーラムの 進行役を担当。
平成 25 年 10 月 27 日	第 7 回今治タオル体操コンテスト (今治タオル体操愛好会)	地場産品・今治タオルの普及を目指した、 タオル体操のコンテストの審査員を担当。

### (4) 共同開催事業

#### ①東日本大震災被災地ボランティア活動 ボランティアバス運行

東日本大震災被災地により多くの支援の  
力を届けるために、今治市から現地へボラ  
ンティアを送迎する「ボランティアバス」  
を運行した。被災地での活動希望者を 18  
名程度公募し、現地のニーズに合致した活  
動を展開することで、被災地の復興に寄与  
した。

共催：今治市ボランティア団体連絡協議会



▲関連新聞記事 2013 (平成 25) 年 9 月 23 日愛媛新聞

## 事前説明会

ボランティアバス参加活動希望者を対象に事業趣旨、  
現地でのニーズの伝達、それに基づいた活動計画を説明。

日時：平成 25 年 8 月 26 日（月）19：00～20：00

会場：今治市民活動センター 大会議室



## 被災地での活動日程

日程：平成 25 年 9 月 12 日（木）12：00 頃 今治出発

平成 25 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）現地活動

平成 25 年 9 月 17 日（火）3：30 頃 今治到着

活動者：18名



## 活動報告会

これまでの3回の運行を総括して、被災地の現状、継続的な復興支援の必要性等を共有する報告会開催

日時：平成 25 年 9 月 19 日（木）17：15～18：45

会場：今治市総合福祉センター愛らんど今治

### ■報告書詳細は p 35 に掲載

#### （5）資源回収活動事業

再生可能な資源ごみを回収した。

#### （6）いまばり夢学校開校準備事業

次年度への引継ぎ事項として共有した。

#### （7）「しまなみ資源」を活用した地域振興事業

自転車による地域振興を進める島嶼部の住民会議への助言を行った。

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

# 東日本復興支援ボランティア チーム今治・活動報告会

甚大な被害をもたらした東日本大震災。被災地では復興に向けた歩みが始まっています。生活の安定には長い道のりが予想される中、遠く離れた地域からは様々な形で支援活動が続いています。現地へボランティアを送迎する「ボランティアバス」もその一つ。今治 NPO サポートセンター・今治市ボランティア団体連絡協議会は協働し、活動希望者を公募。これまで3回の運行で延べ 53 名を被災地へ送ってきました。

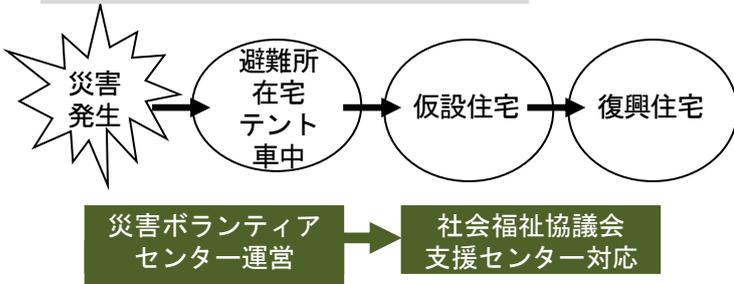
本報告会は3年半が経過した被災地について、現地を訪れたメンバーが見聞きした現状を伝え、そこで暮らす人々の「今」と「これから」を考えたいと企画。50 名余りの方と共に、私たちにできることを考えました。



東日本大震災復興支援  
ボランティアバスって？

愛媛県が拠出した 1,000 万円に、県民・企業等からの寄附を合わせ「えひめ愛顔助け合い基金」を創設。この基金を利用して、「ボランティアバス」は運行されました。「食事、移動、宿泊は自分で調達する」ことが基本のボランティア。バス運行は、東北という遠路の交通費軽減、また物資等をバスに積み込んでの有意義な活動を実現しました。

## 移り変わる被災者の生活状況



被災地で長引く仮設住宅での暮らし。生活再建の柱となる「住まい」について、今、転換期に差し掛かっています。岩手、宮城、福島 の 3 県では、仮設住宅に住む住民向けに復興住宅を 2 万 4200 戸用意。自力での住宅再建が難しい方のために自治体が設置する公営住宅で、所得基準はあるものの家賃負担が発生します。また、入居にあたっては、コミュニティ形成、二重ローン問題等、課題はより複雑化。在宅の被災者へ届きにくい支援、就労困難による生活困窮世帯の増加といった課題も見えてきています。

渦中の被災者のつぶやきを、愛媛県社会福祉協議会・喜安恒賀さんにご紹介いただきました。

- ・イベントや振る舞いはもういい。早く日常を取り戻したい。
- ・長い避難生活で料理の仕方も忘れたよ。
- ・復興を期待されて気持ちが重い。
- ・絆や仲間という言葉は聞き飽きた。

つぶやきから見えてくるのは、ボランティアの姿勢を問うもの。「行った支援は被災した方々を本当に勇気づけただろうか」「被災者の生活に寄り添い、被災者の自立を尊重した活動だっただろうか」、個々人が問いかけました。



## これなら、元気と笑顔を届けられる！

報道で知ったあの日の災害。モニターから飛び込んでくる光景を前に「義援金を送ろう。それくらいしかできない」、当時の思いをこう振り返ったのは、ボランティアバスのリーダーの一人、渡辺小百合さん。現地での活動に動機付けたのは、岩手県宮古市からの声だったそう。「“タオル1本でできる『今治タオル体操』をテレビで見た！仮設住宅でやりたい！！」タオルの町・今治で取り組む「今治タオル体操」の普及活動。いつもイベントや施設で行う「出前体操」が、被災地の生活の支援になるのなら…。活動の大きな柱となりました。



## チームワークを構築

「24時間、揺られて行くボランティアバス。この時間が仲間意識をつくった」と語る、もう一人のリーダー・近藤健太郎さん。大学仲間、同僚等での利用が一般的なボランティアバス。今治からのバスは公募型。初対面の人とグループをつくり、現地へ向かう。力を合わせての清掃活動、思いを込めた植樹と、チームプレイで取り組まなければ、限られた時間で効果は発揮できません。休み休み向かう道中はメンバーが知り合い、モチベーションを高める時間となったそう。参加者の動機は多様ながら、復興を願う思いは一つです。



- ・「得たことの方が大きい」活動者の皆さんの言葉が身にしみた。
- ・伝えていただかないと分からないことばかり。聞けてよかった。
- ・現地に足を運ぶ大切さを感じた。



### 3. 会議に関する事項について

#### (1) 総会

##### ①第12回通常総会

日時：平成25年5月14日（火）19：00～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2012年度事業報告・収支決算報告  
2013年度事業計画・収支予算の件  
役員の新任の件  
定款変更の件

#### (2) 理事会

##### ①2013年度第1回理事会

日時：平成25年4月23日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2013年度事業計画・収支予算の件  
役員・有給役員の件  
総会に付すべき事項の件

##### ②2013年度第2回理事会

日時：平成25年6月25日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：理事長選任の件  
今治市民活動センター事業「出張相談会」の件  
今治市民活動センター事業「高校生リポーター活動」の件  
委員会・審議会への参加の承認

##### ③2013年度第3回理事会

日時：平成25年8月27日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：東日本大震災復興支援ボランティアの件  
今治市民活動センター事業「NPO 現場見学ツアー」の件

##### ④2013年度第4回理事会

日時：平成25年10月22日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：今治市民活動センター事業「まちづくりサポーター」制度の件  
講師派遣の承認  
2014年度事業 企画検討

##### ⑤2013年度第5回理事会

日時：平成25年12月13日（金）19：00～  
会場：蔵膳  
議題：今治市民活動センター事業の進捗状況報告

##### ⑦2013年度第6回理事会

日時：平成26年2月25日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2014年度事業計画・予算  
2014年度総会報告事項